

平成28年度【地元論】のご紹介

本科目は、昨年度より新たに開講したものです。

授業は、”地元“の概要を理解し、学生個々人の”地元“に対する理解と愛着を深め、”地元“で働き、”地元“を創造していく重要性を教授するものです。

○ 平成28年12月8日「地元で働くこと」

山形県天童市にある「さとうウィメンズクリニック」で助産師として勤務していらっしゃる、本学1期生の奥山由枝さんより、お話しいただきました。



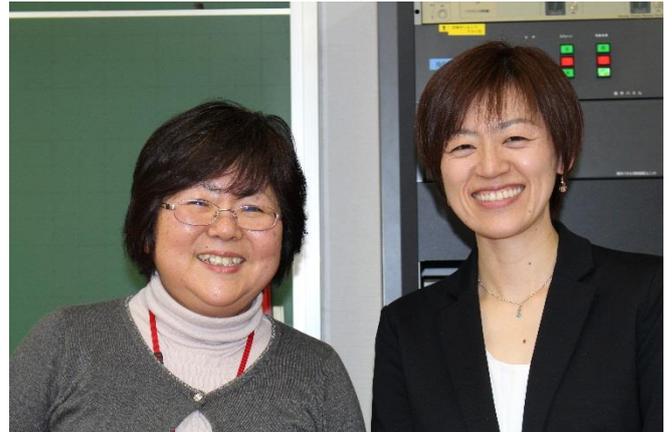
<学生の学びや感想>

- ・病院ではなく、クリニックということで、切れ目のないケアが行われていて、メリットを感じた。
- ・クリニックだからこそ、スタッフの方と妊婦さんとの関わりが密接なものになるし、1人の妊婦さんにしっかりとついていられるのだな、と思った。助産師は、お産に立ち会える介助できるのは貴重な事だし、すごいことだと感じた。頑張って助産師になりたいと思った。
- ・クリニックの良さをあまり知らなかった。小さいクリニックだからこそ仲間との絆が強かったり、地域の人と関れたり、と良さをたくさん聞いて良かった。
- ・将来は大きな病院で働きたいと、漠然と考えていましたが、大きな病院で経験を積んでからクリニックで働くのも良いなと思った。
- ・自分の好きなこと、興味のあることを仕事に出来るのは良いなと思った。
- ・妊婦さん・褥婦さんのために研修に行ったり、資格を取ったり、どんどん良くするために自分から行動できるのは、やりがい生まれていいなと思った。
- ・自分のやりたいことが出来る場所なら、働く場所はどこでもいいと思っている。出身地＝地元が必ずではなく、その地域に縁があって根付いたら、そこが地元になるんだ、とも感じた。
- ・(他県から)山形に来て下さった方(Nターン?)だからこそ、山形の魅力を話して下さったので嬉しかった。



○ 平成 28 年 12 月 22 日「地元で働くこと」

山形県上市市にある「長岡医院」で透析看護認定看護師として勤務していらっしゃる、小嶋和美さんよりお話しいただきました。



<学生の学びや感想>

- ・「こんな看護師になりたい」という、自分の看護師象を持つことが必要だと思った。
- ・急性期、慢性期の病院と診療所とでは、忙しさも必要な技術も学べる技術も違うので、自分がどんな看護をしたくて、どんな技術を取得したいのかによって就職するところも変わってくるのだなと思った。
- ・「言葉・態度の裏にある思いに気づく」という話から、患者の表面だけの様子に惑わされず、その人を理解することが信頼関係を築くのに大切だなと思った。
- ・患者と接する時の、普段との違いに気づく、患者ごとの合わせた話し方をするなどの、看護師としての心得が分かった。
- ・認定看護師になるのと、資格は持たず勉強してその専門的な看護師とやっていくのでは何がそんなに違うのでしょうか。

○ 平成 29 年 1 月 12 日「地元で働くこと」

山形県寒河江市の市役所で保健師として勤務していらっしゃる、昨年 3 月卒業の山崎あかりさんよりお話しいただきました。



<学生の学びや感想>

- ・看護師が患者さんに対して看護を提供する前段階の、予防に携わることが出来ると聞いて、病気になる前に予防出来たら一番なので、保健師の仕事に興味が出てきた。
- ・地域の方との結びつきがあり、継続して関係することの出来る保健師に、とても魅力を感じた。
- ・住み慣れた地元で、周りのサポートもある中で働けることはいいと思った。
- ・仕事内容や写真で様子を知ることが出来て、より知りたいと思いました。私も地元で働けたらと思った。
- ・保健師の仕事は、生まれる前から生まれた後、また引っ越す時も支えるということを知り、勉強になった。
- ・地域に深く関わって働いていけるのはすごくいいなと感じた。
- ・一人一人の住民の生活や健康のために勤められるのは、やりがいがありそうだと感じた。

*シラバスは、学生便覧からご覧ください。